

---

## 別科助産専攻

報告者：峰岸まや子

---

### 教育及び実践の課題

---

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災という未曾有の大災害を日本は経験した。一般的に妊産婦は災害時要支援者としても位置付けられており、日本助産師会においても災害母子支援マニュアルを作成している。沖縄も本島から八重山諸島にかけてプレートがあるため、いつ大きな地震が発生してもおかしくない。本科では助産管理学において「災害と助産管理」で講義を行い、今年度から地震発生を想定したシミュレーションによる学習も取り入れた。今後はより実践に近い形での体験ができるよう、シミュレーションの内容を検討する必要がある。

---

### 活用した論文の概要

---

Yasunari ら (2011) の研究の目的は、妊婦自身が災害への備えができることを目標とした教育プログラムを開発し、その有用性を評価することである。本教育プログラムは、災害への備えに対する意識化・行動化を目指したプログラムであり、研究者らが先行研究 (University of Hyogo, RINCPC 2005, 2006) から集積した知識を基に開発した。その内容は①備えへの重要性、②災害時の家族との連絡手段、③災害時の受診先とアクセス、④避難所および避難経路、⑤避難物品、⑥家の中の安全への備えの 6 つである。被災体験のない初妊婦；介入群 99 人と対照群 104 人を分析対象とした結果、意識変容に関する項目の中で変化が見られた項目は 5 項目で、家族との連絡に関する情報や病院・避難所に関する情報を持っておく、妊娠経過を説明できるなどの備えであった。介入群の妊婦にとってはプログラムの受講により知らなかった知識を得たということの意味し、災害に対する備えの一部として必要な知識を提供してきた本教育プログラムの有用性が評価できた。

---

### 教育及び実践への活用

---

論文の知見から「災害と助産管理」の 2 コマの内容として、①災害の基礎知識 (定義やハザードマップ等) ②災害支援 (被災妊産婦・母子・女性の特徴と援助、助産師の役割と活動内容) ③災害時のシミュレーションを展開した。病棟における災害発災時の対応には、現実的に行動できるようなイメージづくりが重要であるという論文結果から、実際に病院で活用しているアクションカードを提示し、使用方法を説明した。加えて、中越沖地震や東日本大震災時の教訓を得て作成された「助産師が伝える災害時の知恵ぶくろ」や「助産師が行う災害時支援マニュアル」をもとに、助産師としての災害対策を意識づけるようにした。

また、大地震が発生し、「妊産婦や新生児の避難所」の設営と管理の要請があったという設定で、シミュレーションを行った。学生はダンボールと机を利用して、講義室を 3 つのスペース (分娩室・授乳室・新生児室) をつくり、教員が被災妊産婦役や被災助産師役で実演した。その後、非常食の試食も行い、災害時の食料確保についても学ぶ機会とした。論文から得た「災害時の備え」に関して、実際に避難所の設営や被災妊産婦の受入を体験して、日頃からの備えの重要性を実感した講義・演習となった。

---

### 参考文献

---

Yasunari T, Nozawa M, Nishio R, Yamamoto A & Takami Y. (2011). Development and evaluation of disaster preparedness' educational program for pregnant women, *International Nursing Review* 58, 335-340.

---